

令和2年度

河瀬中学校 学校評価

本年度の重点目標

- ・ 確かな学力を身につけ、自ら課題を設定して解決法を探る態度を育む。
- ・ 人権教育を通じて正しい倫理観と実践力を育み、よりよい社会の構成者を育成する。
- ・ 世界の課題を自分事として捉え、持続可能な社会の担い手としての素養を育む。
- ・ 個性や適性、発達段階に応じて進路について考える機会を設け、自らの未来を選択する力を育む。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	◎中高一貫教育校として、自学自習を目指し、発達段階に応じた教育活動を実施している。	B	B	B
	◎教育活動を公開・発表する機会を設け、改善につなげている。	B	A	B
2 学習指導	◎教員研修を行い、研究と修養に励んでいる。	B	A	B
	◎授業評価を積極的に行い、生徒の授業満足度を高めるよう努めている。	B	A	B
3 生徒指導	◎生徒指導上の問題行動を、生徒の更なる成長の機会と捉え、指導している。	A	B	B
	◎生徒の自治能力を高めさせ、生徒会諸活動の一層の充実発展を期している。	A	A	A
	◎生徒へのいじめに関するアンケート等を行ない、実態把握と指導等を行なっている。	A	A	A
4 進路指導	発達段階に応じた進路学習により、望ましい職業観・勤労観を養うための指導を行っている。	B	B	B
	◎生徒の将来の夢や希望が実現できるよう、各教科の指導を徹底して行っている。	B	B	B
5 特別活動等	◎中高一貫教育校にふさわしい異年齢による学校行事や交流活動を推進している。	B	B	A
6 学校図書館	◎図書便りの発行、蔵書の充実により図書館の利用充実に努めている。	B	A	A
7 保健・安全指導	◎教育相談やスクールカウンセラーを中心に、相談を受けやすい体制作りに取り組んでいる。	B	A	B
	◎登校指導・防災訓練など、生徒が安心して学校生活を送れるよう取り組んでいる。	B	A	B
8 食に関する指導	正しい食習慣を身につけることにより、自らの健康管理ができるよう指導している。	B	B	B
9 人権教育	◎多様な題材を取り扱うことにより、多角的・多面的に人権について考える機会を設けている。	B	B	B
10 環境教育	◎「クリーンデー」を設け、環境美化活動への啓発を図っている。	B	B	B
11 事務・管理	◎施設・設備の安全点検を日常的に行うとともに、学校環境の整備に努めている。	B	A	B
12 その他 学校の取り組み	◎より良い学習環境構築のため、PTA活動を推進している。	B	B	B
	◎教育の情報化を推進し、Society5.0に向けた教育を行っている。	B	A	A

- (注) ・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
 10月 中間評価(自己評価)の公表(8月までの教育活動に対する中間評価) A B C Dの4段階評価で示す。
 3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価) A B C Dの4段階で示す。
 ・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
 ・A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。
 ・併設高等学校と共通の重点評価項目には◎をつける。

学校のURL : <http://www.kawase-h.shiga-ec.ed.jp/>

学校経営について

- ・中高一貫教育校としての特色を生かすために、教育課程はもとより組織体制や学習内容にわたり編成・充実したものにしていく。

学習指導

- ・どの生徒にも授業満足度が高まるように、授業評価を授業の中で定期的に入れていき、授業改善に努める。
- ・中高一貫教育校としての特色である国語、数学、英語の先取り学習については発展的な内容を含めた指導の充実を図る。
- ・アカデミックプログラムの内容を充実させ、生徒の興味・関心を引き出す機会を与え、自ら学ぶ姿勢を身に付けた生徒の育成に努める。

生徒指導

- ・いじめの調査や面談を定期的に行い、早期に実態把握をして解決していく。
- ・スマートフォン等の使用についての指導を家庭、学校が協力して取り組む。講演会等を利用し指導の機会を増やす。

進路指導

- ・キャリア教育を系統的に行い、目先の進路だけでなく、将来にわたって望ましい進路選択ができるような進路指導を行う。キャリアパスポートの積極的活用を行う。

特別活動等

- ・中高での生徒会活動を連携させ、自治能力の育成を図る。
- ・「心、技、体」のバランスを備えた部活動の活性化を図り、中高での活動や指導の連携を図る。

学校図書館

- ・書籍が充実してきたので、さらに利用の機会を広げ、読書習慣を身につけさせたい。

保健安全指導

- ・教育相談に対する生徒の評価が低かった。日頃から全教員が生徒の様子の変化に敏感になり、教員同士や保護者との連携を密にとっていく。その上で、教員による教育相談の機会を増やしたり、スクールカウンセラーの活用を推進したりして支援の必要な生徒への対応を進めていく。
- ・自転車の運転に対する安全教育を充実させていく。
- ・生徒・教員ともに新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。

人権教育

- ・人権意識を高める学習指導や職員研修が充実してきた。差別につながりかねない事象を見過ごすことがないように、また、差別事象に対していつでも声が上げられる環境づくりを行っていく。LGBT・コロナ差別という新たな課題に対しても研修を取り入れて、人権感覚を磨いていく。

環境教育

- ・教科学習をはじめ全教育活動を通じて環境に対する意識を高めさせ、自ら環境保全に取り組める生徒の育成に励む。

その他

- ・Web ページの適時性に力を入れ、学校情報の積極的な発信に努める。また、学校の特色や活動を広く一般の人にも知らせるよう、新聞広報活動にも努める。